

## <報道発表資料>

カテゴリー：お知らせ

令和4年8月12日

### 熱中症対策に暑さ指数を御活用ください

埼玉県の夏は暑さが厳しく、熱中症の危険度が高くなります。熱中症を予防するためには暑さ指数（※1）を参考に激しい運動や炎天下での外出を控えるなどの対応が必要です。

環境科学国際センターでは、「暑さ指数計」を県内20地点に設置し観測網を構築しました。

埼玉県気候変動適応センターのウェブサイト（※2）で見ることができますので、熱中症予防のため是非とも御活用ください。

#### 1 独自開発した暑さ指数計 （呼称：進化する百葉箱）

従来の百葉箱の機能に、温湿度計と黒球温度計を加え暑さ指数を自動で計算します。

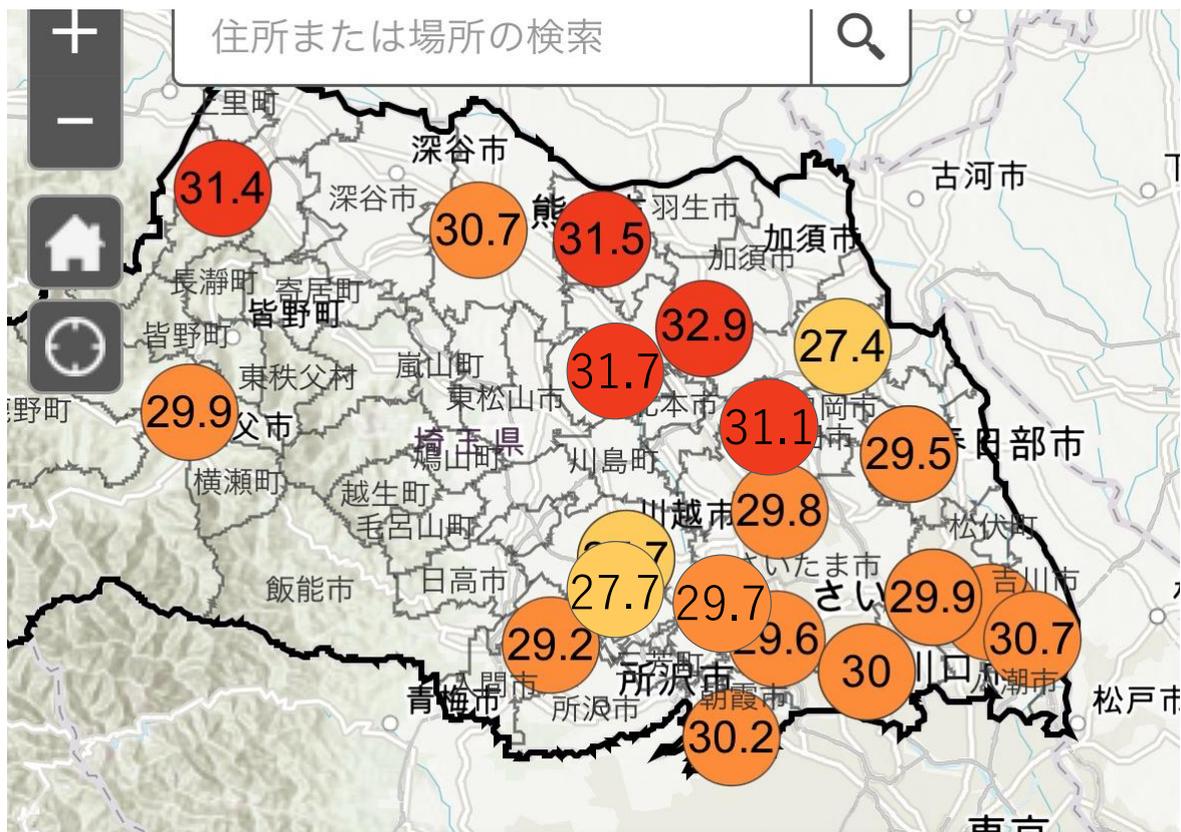
インターネットを経由してリアルタイムで情報を提供することができます。



#### 2 観測網及び提供する情報

工業系の県立高等学校等20地点の測定結果を集約し、埼玉県気候変動適応センターのウェブサイトで見ることができます。

暑さ指数が28以上の場合は、日常生活におけるすべての生活活動において熱中症の危険性が高まるので、冷房の利用や外出を控えるなど予防対策が必要となります。



※1 暑さ指数 (WBGT)

人体と外気との熱のやりとり (熱収支) に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射 (ふくしゃ) など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標。

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28~31) ※1		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28) ※2	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver. 3」(2013) より

※2 埼玉県気候変動適応センターのウェブサイト

<https://saiplat.pref.saitama.lg.jp/archives/1277>

